

愛語回天の力あり

岐阜市立本荘中学校 2年

宗形 祐羽

みなさんは、誰かが痛い思いや恥ずかしい思いをするのを見て楽しむ、そういう番組を見たことはありませんか？自分はどこかに姿を隠し、その人が困る姿を覗き見して笑うという番組づくり。大勢の視聴者が1人の人を笑うという構図は、あれはいじめと変わらないと思います。視聴者は直接手を下すこともなく、加害者でもないのです、安心して他人のことを笑い続けるのです。そんな笑いに慣れた若者は、人を傷つけてはいけないという感覚まで麻痺してしまうのではないかと、私は心配しています。

私は小学生のころ、インターネット上でいじめられていました。私はスマートフォンを持っていませんから、私本人が知らないところに何人かが集まって、悪口を並べ立てるといった形で、そのいじめは繰り返されていたのです。

私がこの事実気づけたのは、Aさんという友達がそれを教えてくれたからでした。

「BさんとかCさんとかが、ゆうさんのことをSNSで悪口言ってるよ……」

にわかには信じられない思いのまま、Aさんに頼んで、その画面を見せてもらいました。すると、スマホの中は私への悪口ばかり。意地悪な言葉の展示会のようなでした。

Aさんが教えてくれたことへの感謝より、どん底に突き落とされたショックが先に来しました。私が友達だと信じていたCさんまでが私のことをとてもつらい言葉で呼んでいたのです。裏切られた。足元がふらふらして、血の気が引いていきます。もう、何が起きているのか、整理がつかません。

どうしよう。お母さんに言おうか、やめようか。でも苦しい。でも知られたくない。お母さんだから言えない。お母さん。私は毎日、笑顔で幸せなはずでしょ。でも、私を信じてくれるお母さんを、私はだましたくないの。

一晩悩んで、私は告白することにしました。すると、私にお母さんは、「話してくれてありがとう」と泣いている私を強く抱きしめてくれました。私の方がお礼を言わなくてはいけないのに。

その後、このいじめは、学校の先生たちに伝えられ、何度かの大人同士の話し合いによって、消えていきました。あれは解決だったのか、私には分かりません。謝ってくれたけど、どこまで本心だったのか、それも分かりません。ただ、その後は繰り返されることもなかったように思います。

私はこの経験で、いけないモノを見てしまったように思います。教室では笑顔で接してくれるCさんなのに、スマホの世界には別のCさんが隠れていた……。それから、事実を教えてくれたAさんは、どんな思いでいたのかな。吹きすさぶ私への悪口の嵐の中、その悪口に同調する瞬間があったとしても、私にはその思いが分かるから、Aさん、私はあなたに感謝しかありません。

こんなことがあって、私は、「いじめをしたくなる心理」というものについて調べたくなりました。私は、そこで分かったことを、この会場にいるみなさんに考え深めてほしいと願っています。

1つ。人は、ストレスや不満があると、それを他人にぶつけることで解消しようとする生き物だということ。人間って、自分より不幸な人を作ることで安定するのだそうです。

もう1つ。人は承認欲求が満たされると、心にゆとりができ、自尊心が生まれるのだそうです。だから、目標があって、努力し続け、心にゆとりがある人は、いじめなんかには走らない。当たり前のことです。私はここに課題があると思います。

この会場のみなさんにお願ひしたいことは、子どもたちの孤独な心に手を差し伸べてほしいということです。大人から蔑まれた子は、満たされぬ思いを別の誰かにぶつけるかもしれません。私をバカにしたあの子たちは、どこかに傷を負っていたのかもしれない。

逆に、大人に大事にされた子は、周りの誰をも大事にする人になるのではないのでしょうか。なのでお願いします。人の痛みや不幸を笑うような品のない笑いを、これからの日本を支える子供たちに教え込まないでください。

「愛語回天の力あり」という言葉があるそうです。思いやりに満ちた言葉は、この世界をひっくり返すほどの力がある。よい言葉です。私はその言葉を信じます。あとは実践あるのみです。